

二〇二二三年度

第一回

国語入試問題

帝京高等学校

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

※特に指示がない限り、句読点も一字に数えなさい。

【一】 次の文を読み、後の問いに答えなさい。(本文の都合上、一部の表記を書き換えた)

日本人はもともと耳バカだったのかもしれない。人の話をきいてもよくわからない。すぐ忘れてしまう。大事なことは証文にする。あるいは記録にする。口約束は信用しない。

大人がそうだから、そういう大人に育てられることもが、人の言うことをきけないのは当たり前かもしれない。

かつて、私は母校の中学、いまは高等学校になっているところから、創立記念の講演を頼まれた。代表的卒業生だというので選ばれたのではなく、校長が友人だったからである。その校長が言ってきた。うちの生徒は、講演を聴くことが下手で、三十分もしないうちに、ざわつく。それをふくんでおいてほしい、という。そういう生徒では、遠慮のある講師を招くことができない。それで卒業生を考えたのだろう。

① カクゴして話しに行った。よほど前もって注意してあったのか、思ったより静かだったが、後半は私語するのがあってフユカイだった。高校生なんかには講演などするものではないと肝に銘じた。そして、西脇さんのことを思い出した。

詩人の西脇順三郎さんがあるとき山梨の名門高校で講演をした。私は大学で西脇先生から何年も教わった。天才的な学者で、おもしろいにはおもしろいが、ひょうひょうとして、とらえにくい話である。高校生には無理だ。

講師が話しはじめると、早々とさわぎ出した。西脇先生、憤然として、壇を降り、さっさと帰ってしまった、という話である。

いくら優秀な生徒でも、点数にならない話をよく聴く力はない。馬耳東風。馬の耳をもついても秀才でありうるのだからおもしろい。

これはついさきごろのこと。

東京近県のある高等学校から講演を頼まれた。いろいろなやな経験もしている。たいていは断っているから、断ろうと思って、依頼をよく見ると、有志希望者百名ほどに聴かせる、というのである。断るいいコウジツを見つけたと思つた。「聴きたい生徒だけに聴かせるのは張り合いがありません。いっそ、聴きたくない生徒に話す方がおもしろい」と返

事をした。断つたつもりでいた。すると、しばらくして全校生徒に聴かせる、と言ってきたから、断るに断れず^① 当惑して
いる。

高校生でそうだから、中学生以下では外部の人の話をきかせるなど思いもよらないことになる。近年は耳バカは低年齢
化して、小学校入学早々、先生の言うことがきけず、暴れる児童があらわれた。マスコミがおもしろ半分、学級^④ ホウカイ
などと呼んだから、ひろく世間の話題になったが、要するに、幼にして馬の耳をもつこどもがふえたということで、笑っ
ていられる話ではない。

大学生だって負けてはいない。授業中のおしゃべりを気にしては教師はつとまらない。ことに女子学生がうるさ
い。同じ女子学生でも、偏差値の高い学生の方が静かに講義を受けることができるようで、どうも、聴く能力は知的能力
と比例するらしいと言っている老教師もある。聡明の聡は耳の知であり、目の知である明よりも上位にあるのがおもし
ろい。

講義がきけない学生は、大学^⑤ 紛争^⑥ ころをピークにだんだん少なくなっているらしいのはめでたい。どうしてそう
なったのかわからないが、日本人がよい方向へ進んでいるのであるなら喜ぶべきことである。

^A 日本人はどうして、耳バカになるのか。ある人によると、幼児に耳をきたえることをしないからだという。こどもが幼
いとき、まわりは、こどもに話をきかせようとすることがすくない。叱ったりはしても、わけのわかることばをきかせる
ことが充分でない。だいたい大人同士で勝手なことをしゃべっていることが多い。親のいうことがきけない、といっ
かつては、子のしつけとして、子向けの親のことばがあったが、テレビがあらわれ、親よりもテレビの方が多弁で雄弁で
ある。

テレビは、聞き流せばよいことを大人がしてみせるから、テレビを見ながら、ききながら、好きなことをしゃべる習慣
はすぐつく。テレビはよくきいてくださいとも言わないし、さわがしくても注意したりしない。テレビではこどもの耳
の力を高めることはできない。

このごろはすこし下火になったが、ひところ講演会に人気があって、満員^⑤ セイキョウ^⑥ が方々にあった。

目ぼしい講演会はマスコミにとりあげられることもあるが、聴衆はきまつて、「熱心にメモをとっていた」というのがきまり文句。^Bそれで聴衆をホメたつもりなのであろう。それは耳のよくないマスコミの取材だからで、本当に熱心に話をきく人ならメモなど取らない、ということを知らないのである。

メモをとれば、書くのに気をとられて、耳の方は半分、お留守になるということがわからないのは言語的に未熟であるのかもしれない。書く方が聴くよりも高度の知的作業であるという先入観があるのを示している。全身を耳にして聴くというのが知的である、ということのをわれわれは実感しない。文字の方が話より高級だとする常識？ は、なかなか消えない。そのためにどれくらい日本人は損をしているかわからない。

かつて、ある大学生が、すぐれた哲学者に講義のノートのとり方を教えてもらいに行った。大学で本格的な講義が行われていたところのことである。先生は、まず、ノートなどとらない方がいい。ノートを取るのに気をとられていると講義の大事なことを聴きのがすおそれがある、と教えた。

「それでは、大事なことを忘れませんか」と学生が尋ねると、先生いわく、

「そんなことはありません。かえってよく頭に入るくらいです。ノートしてあると思うと、気がゆるんで、かえって忘れやすいのです。安心して、忘れるのですね」

そう言つて、学生をおどろかせた。学生は教えられた通り、ノートを^C克明にとることをやめて、優秀な成績をおさめたという。

この学生は^A後年、ドイツへ留学したが、向こうの学生の多くが、じっくり耳を傾けるだけで、あまりノートなどとらない。ただ、面倒な数字などをメモするだけであるのを見て、^C老哲学者の教訓を改めてかみしめたという。

(外山滋比古『国語は好きですか』大修館書店)

b ひょうひょうとして

ア おごそかで、ひっそりと静まりかえったさま

イ にぎやかで、活発に動きまわるさま

ウ 威厳があり、近寄りがたいさま

エ 世間離れしていて、つかまえどころのないさま

c 馬耳東風

ア 多くの人の前で、恥をかくこと

イ 他人の意見や批評などを気にかげず、聞き流すこと

ウ ささいなことや、日常の一举一動にも口やかましく言うこと

エ 一度聞いたことは、しっかりと胸に刻み忘れないこと

問4 文中の傍線部A「日本人はどうして、耳バカになるのか」の理由を二つ答えなさい。

問5 文中の傍線部Bにおいて、マスコミはなぜこのように聴衆をホめるのか。その根拠を答えなさい。

問6 文中の傍線部C「老哲学者の教訓」とは、どういうことか。文中より四十字以内で抜き出して答えなさい。

問7 この文章において、筆者は耳バカにならないための方法論をどう考えているか。「……をくすべきである」という形で答えなさい。

【二】 次の文は『伊勢物語』の内容を踏まえたものです。文を読み、後の問いに答えなさい。

第八十四段は、年老いた母親が死を予感してよこした手紙を、息子が泣く泣く読み、返事を書く、という話である。生きていくなかで、愛する人との死別ほど、悲しいことはないだろうと思う。幸いにして私は、身近にそれを体験したことがないのだが、それゆえにこの段を読むたびに、思い出すことがある。

高校生のとき、友人の母親が、突然亡くなった。朝のホームルームで、担任の教師からその話を聞き、欠席の彼女の椅子を見つめていると、涙がこぼれそうになった。

「かわいそう！ 今ごろ彼女は、どんなに悲しい思いをしているんだろう。私には、ソウゾウもつかない……」
そのとき私は、なんとか彼女の気持ちを理解したいと思い、ある実験^①を心のなかでおこなった。

実験というのは「今日、家に帰ってみたら、突然母親が亡くなっていった」という場面を想定して、自分に暗示をかけ、真剣にその気になり、そうした心を観察してみる——というものである。

まったく、十七歳の女の子というものは、妙なことを考える。今ふり返ってみると、フシギな思いつきというほかに、とにかく当時は、思いつきり真面目に、その実験にとりくんだ。

自分でかけた暗示に、すっかりハマッてしまった私は、背中に黒い穴^②があいて、そこから生気をすべて抜きとられるような感じに襲われた。話を聞いた段階では「こぼれそう」だった涙が、実験に入るともう止まらなくなり、ポロポロ、と
いうよりは A こぼれてきた。

一時間目、国語の授業中のことである。どうやらそのとき私は、教科書を読むように指名されていたらしい。

「タワラ、おい、タワラ」

耳もとで声が聞こえ、はっと我にかえった。

「タワラ、おまえ、あてられてるぞ。××ページの始めから読めって」

隣の席の男の子に教えられて、慌てて立ち上がる。

「ん、どうかしたのか？」と国語の教師が、私の **B** を見て、困ったような顔をしている。

「いえ、あの、その……」

授業が終わってから、心配そうな表情で、再び「何かあったのか？」と **タズ**ねられ、私は声をつまらせながら答えた。「実は、友だちのお母さんが……」

ああ、そのことなら私も知っているよと、国語の教師はうなずき、**納得**したという様子だった。が、私は心のなかで、大慌てで、**チガウチガウ!** と叫んでいた。というのは、その教師の表情に、ありありと「おまえは、なんて優しい子なんだ！」という感動が広がるのを見てしまったからである。

⑤ 自分の涙の本当の意味を知っている私は、すっかり **自己嫌悪**に陥ってしまった。

そのころの日記を見ると、自分をけなす言葉で、ページは埋めつくされている。いろんな表現を使って「私はイヤなやつだ!」ということが書かれている。感情的な部分を削って要約すると、こういうことである。

「私は、友人の母親のほんとうの死よりも、自分の母親の**仮定**の死のほうに、涙を流した。彼女の現実の不幸よりも、自分のソウゾウ上の不幸のほうが、悲しいとは。なんて **C** な人間なんだ」

「相手の身になる、とか、気持ちを思いやる、とか言うけれど、結局それは自分の仮の不幸を悲しむ気持ちを、優しさと誤解しているのにすぎないのではないか」

十代とは、まことに**潔癖**な考え方をするものだ。この一件で私は、本当に**ショック**を受けていた。

正直言って今でも、右の日記の言葉に、私は反論ができない。が、**相手の存在そのもの**になりかわることができない以上、その悲しみを理解するには、ソウゾウ力を働かせるしかないだろう。それでも百パーセントの理解なんてできないし、結局は誰だって、自分の悲しみが一番悲しい。

ただ、今の私は、それで自分を責めるのは、ちよつと**酷**かな、という気がしている。大切なのは、相手を理解しようという気持ちと、人間には **C** な面があるのだということを **ソツチ**ヨクに認める気持ち、ではないだろうか。

——ちよつとしたエピソードのつもりで書きはじめたことが、思いがけず長くなってしまった。

「早く第八十四段の詳しい話を読みたくないなあ」と、イライラされたかたがいらしたら、ごめんさい。

読書とはフシギなもので、そこに書いてあることについて考えるばかりでなく、そこに書いてないことについてまで、考えがどんどん広がっていつてしまうことがしばしばある。『伊勢物語』という本は、特にそういう見えない刺激を、たくさん与えてくれるものようだ。原文はほんとうに短いんだけど、さまざまな光が、そこからは発せられている。

入口のところ、思い切り話がそれってしまったが、それでは第八十四段を見ていくことにしよう。一人息子と年老いた母親との、歌のやりとりで、この段は成り立っている。

——中略——

ある年の十二月のこと、急な用件ということで、息子のもとに母親から手紙が届いた。胸さわぎを覚えつつ、開いてみると、そこには歌が一首、したためられている。

老いぬればさらぬ別れのありといへばいよいよ見まくほしき君かな

年老いると、避けられない別れがあるといいます。この年になると、いよいよ、あなたに会いたいという気持ちがある今日このごろ……。

さらぬ別れ(避けられない別れ)とは、言うまでもなく「死」のことである。何とも切実な心情のにじみでている歌だ。

ただ、内容的に見ると「急な用件」というほどの、具体的な何かがあるわけではない。正直言って息子のほうは、肩すかし、というと語弊があるかもしれないが、なんとなくホツと力が抜けるような感じが、したのではないだろうか。

「それこそ「さらぬ別れ」が来てしまったのでは……というくらいの胸さわぎが、手紙を受けとったときには、あったのではないかと思う。

「老いれば死というものがくる」ということは、あたりまえといえればあたりまえのことだが、ふだん私たちはそれを忘れていたからこそ、日常を生きていられる。しかし、このときの母親にとってそれは、もう忘れていたことなどできないものとして、^⑨ 実感として、日常の中に入りこんでくるものだったのだろう。

この「実感」のあるなしは、やはりおのずと、歌に出てしまう。息子のほうも、涙をうかべて、心をこめて返歌を詠むのだが、^⑩ ハクリヨクには今ひとつ欠けるような感じがする。

世の中にさらぬ別れのなくもがな千代もといのる人の子のため

世の中に、「さらぬ別れ」というものが、なければよいのに。千年も長生きしてほしいと祈る、人の子のために……。

—— いかげだるうか。なんとなくハクリヨクに欠ける理由は、言葉のうえからみるとどこにあるのか、考えてみた。

—— 中 略 ——

もちろん、まだ若い息子に、死をテーマにして母親と互角に歌をやりとりせよ、というのは、そもそも、^⑩ 無理な注文だろう。この一組の贈答歌は、テーマの切実さによって、歌がどれほど違ってくるかを観察できる好例といえるかもしれない。

(俵万智『恋する伊勢物語』ちくま文庫より)

※設問の都合で一部表記をカタカナにしています。

問 1 本文中の波線部 a ～ e のカタカナを漢字に直して答えなさい。

問 2 傍線部①とはどのようなことをするといえるのですか、説明しなさい。

問 3 傍線部②とはどのようなことですか。ふさわしい物を次のア～オより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 死後の世界を体験した事による虚無感
- イ 慣れない事をして怨霊にとりつかれた拘束感
- ウ 自己暗示の中をさまよっている浮遊感
- エ 母親を失う事に対する経験をした事の無い喪失感
- オ 体調がすぐれず今にも倒れてしまいそうな倦怠感

問 4 Aに入れるのにふさわしい表現を次のア～オより一つ選び、記号で答えなさい。

- 「ア サラサラ イ ザーザー ウ シトシト エ ボロボロ オ タラタラ」

問 5 Bに入れるのにふさわしい言葉を本文中の漢字一文字で答えなさい。

問 6 傍線部③とはどのようなことですか、説明しなさい。

問7

傍線部④とありますが、著者は何に対してこのように思ったのですか。ふさわしい物を次のア～オより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 著者が泣いている理由が自分の母親の死を想定したものではないということ

イ 著者が授業中に実験していた事が先生に知られてしまったということ

ウ 国語の先生が著者の事を友人想いの優しい子だと思ったということ

エ 著者が友人の悲しみを思うあまりに現実の死を受け入れられないということ

オ 国語の先生が教科書を読むように指名した生徒名を呼び違えたということ

問8

傍線部⑤とはどのようなものですか。ふさわしい物を次のア～オより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友人の母親の死に対する悲しみの涙

イ 国語の先生が誤解している事への悲しみの涙

ウ 母の死を疑似体験した事による悲しみの涙

エ 著者の性格を理解してもらえない悲しみの涙

オ 友情のはかなさを知った事への悲しみの涙

問 9

傍線部⑥とありますがその理由としてふさわしい物を次のア～オより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 高校時代の自分の未熟さを思い知らされ不幸な気持ちになったから
- イ 友人の母の死よりも自分のイメージの中の死の方に悲しみを感じたから
- ウ 他人の不幸を現実として受け止めきれない心の狭さがあるから
- エ 自分の流した涙の意味が先生に間違った理解をされたから
- オ すぐに泣いてしまう自分の性格の弱さが嫌になったから

問 10

本文中二か所の C には同じ言葉が入ります。ふさわしい言葉を次のア～オより一つ選び、記号で答えなさい。

- 「ア 個人的 イ 感情的 ウ 現実的 エ 空想的 オ 利己的」

問 11

傍線部⑦とはどのような事を述べているのですか、説明しなさい。

問 12

傍線部⑧とはどのような事を述べているのですか。ふさわしい物を次のア～オより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 母親からの急な便りに子供時代の思い出がよみがえり、懐かしかったということ
- イ 母親からの急な便りに歌が一首だけしか書かれていなかっただったので、落胆したということ
- ウ 母親からの急な便りは滅多に来ることがなかったので、便りに感動したということ
- エ 母親からの急な便りは息子にとって愛情を思い返すものではなかったということ
- オ 母親からの急な便りに息子は母の死を覚悟したが、そうではなかったということ

問13

傍線部⑨とはどのような事を述べているのですか。ふさわしい物を次のア～オより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 母親には日々の暮らしの中で息子への歌を詠むことが増えたということ
- イ 母親と息子は日常的に生活を共にすることが大切だということ
- ウ 母親は高齢になったため病気がちになるのが普通だということ
- エ 母親には自分の死がもう間近にせまっているという自覚があるということ
- オ 母親は日常的に自分の人生を振り返る習慣があるということ

問14

傍線部⑩とはどのようなことを述べているのですか、説明しなさい。

問 1

a

b

c

ね

d

e

問 2

Large empty rectangular box for question 2.

問 3

Small empty rectangular box for question 3.

問 4

Small empty rectangular box for question 4.

問 5

Small empty rectangular box for question 5.

問 6

Large empty rectangular box for question 6.

問 7

Small empty rectangular box for question 7.

問 8

Small empty rectangular box for question 8.

問 9

Small empty rectangular box for question 9.

問 10

Small empty rectangular box for question 10.

問 11

Large empty rectangular box for question 11.

問 12

Small empty rectangular box for question 12.

問 13

Small empty rectangular box for question 13.

問 14

Large empty rectangular box for question 14.

Small empty square box at the bottom left.

受験番号

氏名

得点

【一】 問1

- ① 覚悟
- ② 不愉快
- ③ 口実
- ④ 崩壊
- ⑤ 盛況

各②点

問2

- ア しょうもん
- イ とうわく
- ウ ふんそう
- エ こくめい
- オ こうねん

各②点

問3

- a ア
- b エ
- c イ

各③点

問4

幼児に耳をきたえることをしないから。

文字の方が話より高級だとする常識がなかなか消えないから。

各④点

問5

書く方が聴くよりも高度の知的作業であるという先入観があるから。

④点

問6

す	る	ノ
お	と	ー
そ	講	ト
れ	義	を
が	の	取
あ	大	る
る	事	の
	な	に
	こ	気
	と	を
	を	と
	聴	ら
	き	れ
	の	て
	が	い

④点

問7

全身を耳にして聴くとい
うことを
われわれは実感
すべき
である

⑤点

【二】の解答欄は裏面にあります

【二】

問1

- a 想像
- b 不思議
- c 尋ね
- d 率直
- e 迫力

各②点

問2

自分の母親が突然亡くなったと想定して、どのような気持ちになるか観察してみる。

④点

問3

- エ
- 問4
- エ
- 問5
- 涙

②点

問6

著者が泣いている原因が、友人の母親の死を悲しんでいるからだと思っただけという事。

④点

問7

- ウ
- 問8
- ウ

②点

②点

問9

- イ
- 問10
- オ

④点

②点

問11

母親の死に対する悲しみを本当に理解できるのは、母親を亡くした子供だけであり、周囲の者が悲しみをすべて理解することなどできないということ。

④点

問12

- オ
- 問13
- エ

④点

④点

問14

息子が母親の詠む歌と同じように、死に対する切実な気持ちを表現する事は難しいということ。

④点

